



道徳だより



6 / 23 (木)

「かさ」の授業から

「相手の心を思いやり、進んで親切にする。」というねらいで授業を行いました。

傘を貸してもらったときの主人公さつきの気持ちを考え、あまり面識のない人から親切にされるのは当たり前ではないことを押さえた後、おばさんはなぜさつきに傘を貸してくれたのかを考えました。黒板の図で「おばさん→さつき→2年生の子」と親切な行為・思いやりの気持ちがバトンとなってリレーのように繋がっていることに気付き、更に、「おばさんの前、2年生の子の後にもそれは続いている」と考えを広げていました。終末では、親切や思いやりについて、このリレーが続いていくために「相手のことを思う気持ち」や「相手が嬉しくなると思うことをする(行動する)」ことが大切だと考えを深めていました。



親切のバトンが回ってきたら自分で「他の人に親切をしてバトンを回してそれがいつまでもずっと受けられるようにしたいです。」

あたしも、もし、だれかが「こまっていたら相手の気持ちを考えて助けたい」と思った。親切な人は、こまっていたら、かしてあげたりする人、きょうかしたり、教えたりしたい。

「これまで」の自分は、しゅつにあまりできていなかったけど、この授業を見て、読んだ「次からはしゅつにしたい」と思った。親切な人、思いやりの人、相手の気持ちを考える人、こまっていた人に自分から話しかけてもらった時のように、今度は自分が「次からはしゅつにしたい」と思える人になれる。

親切におれば、みんなうれしく、思いやりがふえたら、みんながふええ。

